

3. SGH 研究開発実施概要（成果と課題）

3.1 平成 27 年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要（生徒数は申請時現在）

指定期間	ふりがな	とうきょうがくけいせいしゅうがくふぞくこくさいちゅうとうきょういっがっこう						②所在都道府県	東京都
27～31	①学校名	東京学芸大学附属国際中等教育学校							
③対象学科名	④対象とする生徒数							⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	中等教育学校後期課程（高等学校）を中心とし、一部については前期課程を含む全校生徒を対象とする	
普通科	109	116	122	126	130	124	727		
⑥研究開発構想名	多文化共生社会の実現を支える組織力・対話力・実行力の育成								
⑦研究開発の概要	<p>「リスク」「葛藤と軋轢」「教育」を大テーマとした課題研究を通して、多文化共生社会の実現を牽引し、現代社会および未来につながる課題解決に主体的に取り組むために必要なコンピテンシー、特に「組織力」「対話力」「実行力」を養い、それを活かしたアクションを起こせる生徒を育成する。</p> <p>①課題研究および各教科の授業、国際教養群の授業における探究的学習を通して、コンピテンシーの育成と伸長を促すための体系を整備し実践する。学習領域「国際教養」において、生徒の課題研究を現実的な課題に適う高次のレベルに引き上げるための構造的な改変を行う（SGHAct による学校外活動の単位認定・総合的学習の時間の体系化・課題研究を実践につなげる支援企業参加のコンペティションの実施等）。②課題研究の質の向上および課題研究と評価方法策定のための外部連携を強化し、生徒課題研究を中核としてネットワーク化する。③生徒のコンピテンシーを評価するための指標・規準の確立を含む評価方法について、連携大学・企業・国際的組織と共同した研究・開発体制をとる。</p>								
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>現実の社会問題に即した焦点からアプローチする課題研究への取組によって、多様化複雑化を極める現代社会の課題に対し、その核心をつかんで組織的に対応できる能力を育成する。また、その研究のプロセス・成果を内部・外部の両者によって評価するシステムを構築し、グローバル・コンピテンシーを定義できる指標の提示を目指す。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>*現状の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独自の学習領域「国際教養」が開校当時から設定されており、課題発見-設定-研究というプロセスを学びながら探究的な学習を進めるスタイルを継続的に行っている。 ・プレゼンテーションやディスカッションといった発信・表現のスキルを使いながら教科学習を進める授業も多く、授業の多くにアクティブラーニングのスタイルが取り入れられている。 ・研究成果を外部に発信し、外部の活動に活かしている生徒もおり、外部からの評価も高い。一方また、社会課題や社会貢献への意識が高い生徒も多く、ボランティアツアーや途上国へのスタディツアーには生徒が自主的に参加している。 <p>*研究開発の仮説</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題研究のテーマを概念化して提示することで、生徒の持つ多様な課題意識を焦点化し、現実的課題に結びつけ、机上の空論に終わらないアクションへと結びつける道筋ができる。 ・課題研究を通して、他者（学校内外の高校生・大学生・研究者・企業）と連携することで、課題解決に向かうための知識・能力・技術の組織化を図る方法、対話を通して解決の道筋を発見する方法を学び、多様な課題に柔軟に対応できる連合体を構成する能力を養える。また、第 6 学年次の研究を Pre-SGU と位置づけることで、大学での研究への連続・接続が可能である。 ・課題研究の過程および成果を世に問い、評価を受けることで、研究の質の向上・現実性の保持が期待される。またグローバル・コンピテンシーを評価するための指標の設定、方法の確立に寄与できる。 <p>(3) 成果の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページによる成果の公表と、課題研究に関連する情報その他の外国語による表示 							

	<ul style="list-style-type: none"> ・本校公開研究会での教員側・生徒側両者による公表 ・管理機関及び連携大学・企業との共同による成果発表会 ・生徒運営による国内外の参加者を招いてのシンポジウム・ワークショップの開催
<p>⑧ -2 課 題 研 究</p>	<p>(1) 課題研究内容</p> <p>地球規模の課題解決に付随するテーマとして「リスク」「葛藤と軋轢」「教育」を主軸とし、それぞれに関わる具体的課題を生徒自身が設定・研究する。</p> <p>・「リスク」を主軸とした研究は、「リスク社会」に組織で立ち向かえる能力を中心的に育成する。多様なリスクを分析し、それに対応するための複合的「知」のチームをどのように構成するか、またそのチームでどのようにリスクに対応するかを生徒自身が考える課題研究を想定している。「葛藤と軋轢」を主軸とした研究のキーワードは「フォビア(嫌悪)」である。「フォビア」はなぜ生まれるのか、それを超えて他者と対話し、共通の課題に向かうにはどうしたらよいのかということについて課題研究を通して分析・洞察し、合意形成と平和の実現を可能にする対話力に主眼をおいて育成する。「教育」を主軸とした研究は、生徒自身が教育を受けている立場で同世代・次世代の教育に関する課題を考える。身近なところにアプローチの入口があるため、スモールステップではあっても、研究の成果を実行すなわちアクションにつなげることを想定する。</p> <p>(2) 実施方法・検証評価</p> <p>⑧ -2 課 題 研 究</p> <p>・後期課程3年間を通じて総合的学習の時間(本校では「国際4~6」)を中心として課題研究を行う。4年次:「Personal Project」・5年次:「国際5-SGH 課題研究」・6年次:「国際6-SGH 課題研究」生徒は(SSH・SGH いずれかを選択した上で)個人あるいはチームでの課題研究テーマを三つの主軸のいずれかに関連するものとして設定する。いずれの研究においても最終成果は内部発表にとどまらず、外部評価を受けることを目標とする。研究成果の内、学校外活動については、学校外活動の単位認定制度を導入する(SGHAActの単位認定)。認定に際しては外部機関と連携する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題研究のための調査・研究の機会としての国内外のフィールドワーク・研修を実施する。 ・課題研究支援および課題研究成果発信の場として、また、外部講師を招いての研究支援の場として生徒をファシリテーターとしたグローバルカフェを開催する。 ・学校設定教科「国際」の6年次開設科目「国際A」「国際B」における講座「国際協力と社会貢献」「ファシリテーション実践」を開設し、課題研究を通して身に付けたスキルを発展させる。 ・大学との連携事業(東京外国語大学との連携)国際交流基金との連携、企業との連携を通して、課題研究の成果としての実践を行う。 ・検証・評価については、研究の質・成果の達成度・実践化の度合い、またそれらを通して見えるコンピテンシーの獲得・育成状況を観点化し、指標を設けて評価を行う。評価規準・方法は、校内外部機関もその検討・策定に携わることとする。さらに課題研究助成獲得および外部評価の場として、選抜コンペティション<ISS チャレンジ>を実施する。 <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 特になし。</p>
<p>⑧ -3 上 記 以 外</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「国際教養」を始めとした各授業での「ポスト・アクティブラーニング」の取組 ・英語および英語以外の外国語によるコミュニケーション能力の向上に関する取組 <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 特になし。</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備, 教育課程課外の取組内容・実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外ワークキャンプ実施(現地校でのプレゼンテーション・ディスカッション含む) ・大学・高校との交流事業の推進 ・後期課程生徒主体の運営組織 SGH Student Team の結成
<p>⑨その他 特記事項</p>	<p>本校は平成26年度よりSSH事業の指定を受けている。本校の国際教養は「理数探究」「人間理解」「国際理解」の三領域を中核としており、SSH課題研究は「理数探究」を主軸として運営・実施される。一方SGHは三つの領域を包括的にとらえ、課題研究は三つの概念によって再構成される。</p>

3.2 5カ年研究開発計画・評価計画（当初）

研究開発計画	評価計画
平成 27 年度（第 1 年次）	
<p>①後期課程の「国際教養」領域（総合的学習の時間を含む）について、仮説Ⅰの課題達成に必要な事柄の見直しを行う。重点項目</p> <p>②仮説Ⅰの課題研究を実施する。重点項目</p> <p>③仮説Ⅱの実施に必要な外部連携のネットワークを構築し、連携事業を一部開始する。重点項目</p> <p>④仮説Ⅲの実施の第 1 段階として、課題研究の成果についての評価を外部と連携して行う。</p> <p>⑤SGHAct の単位認定制度のための検討を行う。</p>	<p><内部評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題研究の体系に関する調査・データ収集と本校の課題との比較 ・生徒の課題研究テーマと主軸概念の関係についての校内アンケート調査 <p><外部評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題研究テーマについての外部連携機関の関心度調査 ・外部コンテストや研究発表会への参加
平成 28 年度（第 2 年次）	
<p>①6年間の「国際教養」領域の体系整備の実施。具体的には、スキル育成の前期課程と、課題研究が継続的に高次化するよう後期課程の体系を検討・整備する。重点項目</p> <p>②仮説Ⅰの課題研究を、外部連携を強化する形で実施する。重点項目</p> <p>③外部と連携し、課題研究についての評価規準・評価方法について共同開発を行う重点項目</p> <p>④ポスト・アクティブラーニングの教科学習における試行を行う。</p> <p>⑤SGHAct の単位認定制度の運用方法と要領を定める。</p>	<p><内部評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研究会におけるカリキュラムの体系の整備状況についての検討・評価 <p><外部評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営指導委員会および評価規準・方法策定会議（仮）による、研究開発進捗状況の確認。 ・第 5 回公開研究会における研究開発についての中間発表
平成 29 年度（第 3 年次）	
<p>①6年間の「国際教養」領域の体系を構築する。必要に応じて、教育課程上の名称変更等を行う。</p> <p>②仮説Ⅰの課題研究の成果を国内の学会等で発表する。</p> <p>③外部と連携し、課題研究についての評価規準・評価方法の検証を行う。またコンピテンシーについての評価規準・評価方法の共同開発を行う。重点項目</p> <p>④SGHAct の単位認定制度を施行する。重点項目</p> <p>⑤研究助成のためのコンペティション実施（以後継続）。</p>	<p><内部評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研究会におけるカリキュラムの運用状況についての検討・評価 ・課題研究の評価についての校内アンケート実施 <p><外部評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・SGH 成果発表会開催
平成 30 年度（第 4 年次）	
<p>①国際教養の体系化と課題研究の質的向上の関係性を構造化するための調査・検証を行う。</p> <p>②仮説Ⅰの課題研究の成果を国内・海外の学会等で発表する。重点項目</p> <p>③外部と連携し、課題研究・コンピテンシーについての評価規準・評価方法の検証を行う。</p> <p>④ポスト・アクティブラーニングの継続的試行を通してコンピテンシー育成との関係性を検証する。重点項目</p>	<p><内部評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度の SGH 成果発表会を受けての振り返り <p><外部評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学会発表についての外部の反応の分析とフィードバック ・評価規準・方法の外部提供と検証
平成 31 年度（最終年次）	
<p>①国際教養の体系化完成。課題研究の質的向上とコンピテンシー育成との関係性を構造化する。重点項目</p> <p>②課題研究の成果の実践への移行の検証を行う。</p> <p>③グローバル・コンピテンシーの評価規準・評価方法を策定し、公開研究会等で発表・外部提供を行う。重点項目</p> <p>④Pre-SGU:課題研究について大学への継続がなされているかどうかの追跡調査を行う。</p>	<p><外部評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・SGH 成果発表会開催 ・国際教養の体系化されたカリキュラムの公表 ・コンピテンシーの評価規準・方法の外部関係機関への提案と評価依頼 ・学会におけるワークショップ開催

3.4 平成29年度（指定3年次）の実施概要（成果と課題） 付：資料 平成29年度事業一覧

<p>成果：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題研究については、課題設定の重要性に生徒が気づき、適切な課題を設定して継続性のある研究が成果を挙げることが理解するようになってきた。 ・生徒が主体的に外部と連携する件数が増加し、さらにネットワーク化が始まっている。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資質・能力の評価策定のスピードの鈍化。課題研究を軸としながら、どのように資質・能力の伸びを見きわめていくかを早急に分析・検討する必要がある。

3.4.1 5か年計画における実施状況と平成30年度の予定

＜★は2年次で実施できた項目・○は3年次で実施できた項目・△は着手しているが未完の項目

平成29年度（第3年次）	
<p>①6年間の「国際教養」領域の体系を構築する。必要に応じて、教育課程上の名称変更等を行う。○</p> <p>②仮説Ⅰの課題研究の成果を国内の学会等で発表する。○</p> <p>③外部と連携し、課題研究についての評価規準・評価方法の検証を行う。またコンピテンシーについての評価規準・評価方法の共同開発を行う。重点項目★</p> <p>④SGHActの単位認定制度を施行する。重点項目</p> <p>⑤研究助成のためのコンペティション実施（以後継続）○。</p>	<p><内部評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研究会におけるカリキュラムの運用状況についての検討・評価 ○ ・課題研究の評価についての校内アンケート実施 <p><外部評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・SGH 成果発表会開催★
平成30年度（第4年次）※一部改訂	
<p>①国際教養の体系化と課題研究の質的向上の関係性を構造化するための調査・検証を行う。△</p> <p>②仮説Ⅰの課題研究の成果を国内・海外の学会等で発表する。重点項目△</p> <p>③外部と連携し、課題研究・コンピテンシーについての評価規準・評価方法の検証を行う。△</p> <p>④ポスト・アクティブラーニング（主体的に教室の外と繋がる学び）の継続的試行を通してコンピテンシー育成との関係性を検証する。重点項目</p>	<p><内部評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度までのSGH 成果発表会を受けての振り返り <p><外部評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学会発表等についての外部の反応の分析とフィードバック△ ・評価規準・方法の外部提供と検証△

3.4.2 仮説別の成果と課題

<p><仮説Ⅰ></p> <p>課題研究の主軸の概念化と課題意識の焦点化—「国際教養」の整備と体系的プログラム構築による課題研究の質の高度化</p>	<p>成果</p> <p>① 「課題研究」を軸とした国際教養の再整備（6年次最終論文までの研究の継続化）</p> <p>② 「課題研究」ガイダンスの充実とその効果</p> <p>③ 5年次課題研究成果発表（全員）の再設定</p>
	<p>課題</p> <p>① 教科授業内・教科間連携（IBMYP Interdisciplinary Unit の実施を含む）での課題研究テーマの取り扱い</p> <p>② ISS チャレンジに申請しない生徒の課題研究の充実化</p> <p>③ SGHAct（学校外活動の単位認定制度）の立案</p>

<p><仮説Ⅱ> 課題研究とその評価に際しての外部機関との連携強化—外部機関の支援・連携による課題研究の深化と資質・能力の高度化</p>	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 外部連携先の増加・連携の強化 ② 生徒の主体的な連携能力の強化 ③ 外部からの連携の申し出増加 ④ 外部評価会の効果
	<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 外部機関を含めた評価規準・方法策定会議の開催 ② 内部評価（客観評価・自己評価）と外部評価を用いた立体的な評価構造の開発
<p><仮説Ⅲ> グローバル・コンピテンシーの評価規準・評価方法の策定—外部機関共同策定による評価規準・評価方法の妥当性・信頼性の強化</p>	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 課題研究の評価規準の見直し ② ISS チャレンジのみならず，後期課程課題研究全論文の評価実施の決定（2018年度より） ③ 資質・能力と評価を軸とした「学びの地区」の試験的構築
	<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 課題研究および SGH 事業通じて育成する「グローバル・コンピテンシー」の評価方法・規準の策定

平成29年(2017年)度 SGH事業一覧 2018年3月現在

2017年度実施期間	校内研究事業・運営指導委員会	対応仮説他
4月6日	4月校内研究会① SGH・SSH今年度の事業計画	I・III
4月27日	4月校内研究会② 教科学習・SSH・SGHとATLの整理	I・III
6月7日	学芸大附属大泉地区研修会および第1回評価策定委員会	III
11月24日	SGH情報交換会 兼 第1回 運営指導委員会	I・II・III
12月21日	12月教員会議 次年度課題研究評価について	I・III
2月17日	ISSチャレンジ最終審査会 兼 第2回 運営指導委員会	I・II・III
2月13日	2月教員会議 新5年・6年向け 次年度課題研究予定報告	I・III
2017年度実施期間	課題研究・ISSチャレンジ関係事業内容	対応仮説他
2017年年度初～	課題研究実施	
4月13日	ISSチャレンジオリエンテーション2年生～6年生対象 於 第1体育館 ※SSHオリエンテーションも同時開催 ※以下各学年オリエンテーション等実施日	
4月19日	4年 (Personal Project) スーパーバイザーミーティング	
4月19日・26日	5年 (国際5) ・6年 (国際6) 課題研究 I ・ II オリエンテーション	I
4月27日	ISSチャレンジ研究計画書オリエンテーション	
5月16日	ISSチャレンジ研究計画書書き方相談会(5年生・6年生が講師)	
5月24日	ISSチャレンジ研究計画書締切	
5月25日	ISSチャレンジ研究代表者ミーティング①(自己評価について等)	
6月5日	ISSチャレンジ研究代表者ミーティング②(フィールドノートの配布・指導教員(メンター)の確認)	
6月19日	ISSチャレンジ研究計画書査読締切<教員>	I・III
6月27日	ISSチャレンジ研究代表者ミーティング③(計画書評価フィードバック・研究倫理について)	
7月24日	ISSチャレンジ研究代表者ミーティング④(研究中間報告会・相互評価コメント)	I
9月1日	ISSチャレンジ研究代表者ミーティング⑤(研究ポスターの作成について・外部評価会(9/23 or 9/30)について・外部発表の機会について)	
9月16日・9月17日	本校スクールフェスティバルにてポスター展示・ワークショップ開催(ISSチャレンジ申請者の内2チーム)	I・III
9月23日	ISSチャレンジ外部評価会①	I・II・III
9月30日	ISSチャレンジ外部評価会②	I・II・III
10月6日	ISSチャレンジ研究代表者ミーティング⑥(研究経過報告書の書き方について・外部評価会の振り返りについて)	I
10月18日	ISSチャレンジ研究経過報告書締切・課題研究研究経過報告書締切・6年課題研究論文締切 ISS チャレンジ追加申請締切	
11月21日	ISSチャレンジ研究経過報告書査読締切<教員>	I・III
11月24日	本校授業研究会にてポスターセッション	I・II・III
11月30日	ISSチャレンジ研究代表者ミーティング⑦(研究経過報告書の評価をフィードバック・これまでの評価上位16チームを発表・最終研究論文(1/9×切)について)	
1月10日	ISSチャレンジ最終研究論文提出締切	I
1月11日	ISSチャレンジ研究代表者ミーティング⑧(研究活動の自己評価について・フィールドノートの提出について・研究成果ポスターの作成について・今後の流れ・論文の微細な訂正・推敲について)	
2月2日	ISSチャレンジ最終研究論文査読締切<教員>	I・III
2月6日	ファイナリスト・セミファイナリスト選考<教員>	
2月7日	ファイナリスト・セミファイナリスト発表 ファイナリスト:4グループ セミファイナリスト:14グループ	
2月8日	ISSチャレンジ研究代表者ミーティング⑨(評価・査読のフィードバック・研究ポスターの作成・生徒課題研究発表会(2/17)・外部連携に関するデータ提供・ISSチャレンジに関するアンケート協力依頼・学芸大主催SSH/SGH成果発表会について(2/18))	I
2月14日	研究成果ポスター 提出締切(全グループ)	
2月14日	研究発表スライド 提出およびリハーサル(ファイナリストのみ)	
2月16日	生徒研究成果発表会 前日準備・リハーサル	
2月16日	研究代表者ミーティング	
2月17日	ISSチャレンジ課題研究成果発表会 兼 最終審査会	
2017年度実施期間	国内研修・国内交流・研究発表・ディスカッション等	対応仮説他
6月17日	長野県上田高等学校主催「北陸新幹線サミット」(於 長野県上田高等学校)	I・II
7月26日	SGH校 関西大学高等部との交流(於 東京学芸大学附属国際中等教育学校)	I・II
8月21日・22日	Global Discussion参加(於 名古屋大学教育学部附属高等学校)	I・II
11月7日～9日	世界津波の日 高校生サミット参加 *事前学習 7月29日～10月31日まで9回	I・II
11月9日	高校生国際ESDシンポジウム@東京・全国SGH校生徒成果発表会(於 筑波大学東京キャンパス)	I・II
11月23日	JICA企画展示「『衣』を通じて見る世界」ワークショップ開催と展示参加(於 JICA地球ひろば)	I・II
11月25日	全国SGH高校生フォーラム(於 パシフィコ横浜)	I・II・III
12月23日	第2回関東・甲信越静地区スーパーグローバルハイスクール課題研究発表会(於 立教大学)	I・II・III
1月31日	岡山操山高等学校主催平成29年度未来航路課題研究発表会(於 岡山市民会館)	I・II・III
2月18日	第2回東京学芸大学主催SSH/SGH課題研究成果発表会(於 東京学芸大学)	I・II・III
3月23日～25日	SGH甲子園・関西研修	I・II・III

2017年度実施期間	海外研修・海外交流(事前学習含む)	対応仮説他
7月21日～31日	UCL-Japan Youth Challenge 2017 *事前学習 5月18日～7月19日まで5回	I・II
10月24日～31日	香港研修2017・フィリピン研修2017参加生徒募集	
11月1日～17日	香港研修2017・フィリピン研修2017参加生徒選抜審査	I・II
11月20日	香港研修2017参加者決定	
11月21日	フィリピン研修2017参加者決定	I・II
12月19日	香港現地校交流	II
2月5日～8日	香港研修2017実施 *事前学習 12月13日～2018年1月19日まで5回	I・II
3月12日～16日	フィリピン研修2017実施 *事前学習 2018年1月30日～3月9日まで9回	I・II
2017年度実施期間	Global Café	対応仮説他
4月25日	第1回 「Fashion Revolution @ TGUISS」(生徒主催型)	I
5月9日	第2回 「Refugee Denials in Japan 日本での難民受け入れ問題」(生徒主催型)	I
6月19日	第3回 「ベトナム高校生交流会」(学校主催型・SGH委員会交流委員会共催)	I・II
7月18日	第4回 「フィリピン研修報告会」(生徒主催型)	I
7月26日	第5回 TGUISS × 関西大学高等部 SGH交流会 & 第5回 Global Café「南スーダンの今」(学校主催・外部講師招聘型)外部講師 国際移住機関(IOM)仲佐かおい様	I・II
11月30日	第6回 「JKは考える→異文化交流って何だろう? (留学報告・留学の意義と手続きのコツ)」(生徒主催)	I
12月18日	第7回「雑草×アートー雑草からエコな ニューイヤーカードをつくろう」(生徒主催型)	I
1月12日	第8回「セクシュアル・マイリティと学校教育の課題ー最近の動きからー」(学校主催・外部講師招聘型) 吉谷武志先生 東京学芸大学国際教育センター	I・II
2月17日	第9回「チームラボに学ぶチーム論」チームラボキッズ株式会社 長谷川 様・吉田様	I・II
3月12日	第10回「UCL研修報告会・説明会」(生徒主催型)	I
2017年度実施期間	課題研究支援セミナー	対応仮説他
6月14日	第1回 日本政策金融公庫 国民生活事業 東京創業支援センター 小池 俊太郎 様 「アイデア」から「ビジネス」へービジネスプランのつくりかたー	I・II
6月21日	第2回 東京都市大学 環境マネジメント学部 教授 大塚 善樹先生 「食べ物から考える環境問題」	I・II
9月20日	第3回 上智大学 外国語学部 飯島 真里子先生 「移民と市民権 沖縄からハワイ、フィリピンへ移住した人達」	I・II
9月27日	第4回 早稲田大学 社会科学部 小島 宏 先生 「アジアのムスリムとハラール食品について」	I・II
11月22日	第5回 東京国税局 調査第一部 国際監理官 伴 忠彦先生 「税と国境・税金が国際問題になる時」	I・II
11月29日	第6回 三菱一号館美術館 キュレーター 岩瀬 慧 様 「キュレーターの仕事とアートの価値」	I・II
2月21日	第7回 建築家 Shingo Masuda + Katsuhisa Otsubo代表 増田信吾様「建築を通して考えていること」	I・II

3.5 管理機関の役割と連携

東京学芸大学の役割と連携

管理機関である東京学芸大学は申請書年度から継続的に本校と連携を行い、事業進捗に関する助言や経費支援などを行っている。昨年度からの新たな連携事業として「東京学芸大学主催 SSH/SGH 課題研究成果発表会」を管理機関主催で開催した。前日の会場準備・案内状の発送はすべて管理機関が行い、本校および附属高等学校は生徒・教員ともに当日朝からの準備と運営にあたった。

1. SGH 推進委員会の設置と支援

本校および附属高等学校の SGH 事業を支援するために東京学芸大学内に設置された学長をトップとする機関である。一昨年度から年に 2 回程度開催されており、今年度の主な内容は以下の通りである。

第 1 回：今年度全体計画の確認・大学としての支援体制の確認・年度末の課題研究成果発表会についての打ち合わせ

第 2 回：2017 年度の報告（2018 年 1 月現在）

- ・合同成果発表会の開催（主催東京学芸大学）

本委員会が学内に立ち上げられたことで、課題研究成果発表会の審査員の依頼や大学での場所の確保などがスムーズに行われるようになった。

2. 課題研究支援セミナーや評価策定委員会への教員派遣

東京学芸大学の教員派遣制度を活用して出張講義などをお願いしている。今年度の主なものは以下の通りである。

- ・2017 年 6 月 評価策定委員会 委員派遣 1 名
- ・2017 年 7 月 学芸大学大学フィールドワーク実施（講師は全て学内教員）
- ・2017 年 12 月 大学模擬授業（校内開催）講師派遣 1 名
- ・2018 年 2 月 東京学芸大学主催 SSH/SGH 課題研究成果発表会 審査員（6 名の教授陣）
学長・副学長・附属学校運営参事の出席

3. 東京学芸大学主催 SSH/SGH 課題研究成果発表会

実施日時： 2018 年（平成 30 年）2 月 18 日（日） 10:00～17:20

実施場所： 東京学芸大学 芸術館ホールおよび展示室

主催： 国立大学法人 東京学芸大学

実施組織： 本校全職員及び管理機関連携部署（東京学芸大学 SGH 推進委員会・東京学芸大学国際教育センター・留学生センター）

本事業は、本校職員全員が担当する。必要な情報については、教員会議および校内研究会がその共有機会として確保される。

- ・研究開発実施計画・SGH 委員会・SSH 委員会・特別研究推進委員会
*本事業の中核組織。
- ・当日までの実質運営・SGH 実施グループを核とした本校教員全員
*具体的な運営・実施にあたる。

4. 経費支援と教職大学院との連携

経費支援状況

- ・国内外の教員引率経費の一部・都内引率経費を管理機関が支援。
- ・教育実践研究推進経費（トップマネジメント経費）特別開発研究プロジェクト第 2 年次の予算として 287000 円を管理機関が支援。

教職大学院との連携

- ・SGH 香港研修の引率者として、教職大学院教授 1 名・教職大学院生（現職教諭）1 名を派遣。うち、教職大学院生の旅費分については管理機関が支援。